

余市町交通結節点検討委員会（分科会）の役割、協議・検討する内容について

1. 余市町交通結節点検討委員会（分科会）について

2030年の北海道新幹線札幌開業に伴い、経営分離されるJR函館本線の長万部・小樽間は、北海道新幹線並行在来線対策協議会において、バスを中心とした新たな交通ネットワークの構築に向けた検討を進めていくこととされ、JR余市駅については2030年に鉄道が廃止となった後、新たな公共交通ネットワークにおいて周辺地域を結ぶ交通結節点となることが想定され、JR余市駅周辺のバス停留所の集約配置や、JR余市駅前広場へのバスレーンの集約化、現在線路によって分断されているJR余市駅東西エリアのアクセス向上、パークアンドライドを想定した駐車場の確保など、新たな整備が必要となっている。整備の検討に際し、余市町地域公共交通活性化協議会（以下「協議会」という。）の中から指名された委員で構成される余市町交通結節点検討委員会（以下「分科会」という。）を設置し、地域の実情や将来の交通状況を踏まえた具体協議を行う。

2. 分科会において協議・検討する内容について

分科会については、以下の内容について協議検討を行う

【R5年度】 ※分科会はR5年度に3回程度の開催を予定する。

- ・交通実態調査の結果を踏まえた将来予測に基づき、必要となる交通結節点機能を記載した「余市町駅前再編整備基本構想」の素案の策定に向けた協議・検討を行う。

【R6年度以降】 仮)

- ・余市町駅前再編整備基本構想の策定
- ・整備に向けた基本計画の策定
- ・整備に向けた基本設計の実施
- ・整備に向けた実施設計の実施